

「学びの変革」通信

イノベーション人材育成推進教員活用事業

9月8日（月）に藤間中学校を会場として、第1回算数・数学科授業研究会が行われました。イノベーション人材育成教員の鴨田哲輝先生による授業（単元名「一次関数」）を基に事後研修会を行い、最後に県指導主事から指導助言をいただきました。

以下は、それぞれの学習場面における研修者の声です。（事後研修会で使用した付箋からの転記です。黄：成果、赤：課題、青：その他）



6 指導過程

学習活動・内容	留意点	評価
1. 問題を把握する。		きた $y = 2x + 3$ について提示し、前時の復習「変化の割合はいくつ？」と問い、式、表から切片を読み取ることができることを確認する。そのうえで「変化の割合はいくつ？」と問い、式、表から変化の割合を読み取ることができることを確認し、グラフから変化の割合を読み取ることができないのかとさせる。
① 切片はいくつ？ ② 変化の割合はいくつ？		
2. ペアでの対話を促すことで、下位生徒を拾い、上位生徒のアップデートの場になっており、よかった。	どこをみれば分かる？	
生徒の話し合いをよく聞いていて話し合いの中で出た話題を全体で取り上げている。		
「xの正の方向に1進んだときのyの増加量」を大切にしていた。グラフで見るよさを実感させたい。		
生徒の定着の様子は授業中どのように確認しているのか。		
kahoot!の活用、積極的にICT機器の活用、生徒が使い慣れている。日常的な指導が生かされている。		
(2) 確認問題に取り組む。 確認問題 変化の割合はいくつ？		
(3) 本時のポイントを確認する。 右に1だけ進むときの上下にどれぐらい進むかを読み取れば変化の割合が分かる。		
(4) 変化の割合がグラフの「傾き」を表すこと		
(5) 変化の割合の意味とグラフから読み取るための見方や考え方を理解するために、確認問題に取り組ませる。		
(7) 変化の割合の意味とグラフから読み取るための見方や考え方を理解するために、確認問題に取り組ませる。		
(10) 「変化の割合」が「傾き」であることを理解するために、GeoGebraでの操作を通して、変化の割合がグラフの傾き具合を決めていることに気付くことができるようにする。		
10 「練習問題」に意欲的に取り組めるように、「kahoot!」を利用したゲーム形式で行う。		

全員が授業に参加し、楽しく活動していた。日頃から生徒との関係の良さがすばらしいですね。

既習からの本時の問い「グラフからでも読み取れるの？」が、生徒の問いとなっていた。

変化の割合「2」を見つかる「作業」になっている。根拠や筋道を事前に確認しておきたい。

切片や変化の割合についてしっかり復習を兼ねた問題を行わせており、隣の人と確認している。変化の割合の答えだけではなく、どうやって考えるのかまで話し合わせている。

傾きが変わるとどうなるかをGeoGebraで見せた方がよかったのではないかと具体的に $a=2$ から $a=3$ になると右に1行くと上に3行くと傾きが急になるという例がないと難しい子もいたのかも。

授業改善グランドデザイン「授業改善チェックリスト」より

※ 本時で特によかったと思う点

- ☑ 教材との出合わせ方を工夫し、「考えたい」「やってみよう」という思いを引き出すようにしていた。
- ☑ 子どもと子どもの発言をつないで、集団で学び合える授業づくりをしていた。
- ☑ 分からないことを「分からない」と言える安全・安心に学べる学級になっていた。
- ☑ 授業で何がわかり、どのようなことができるようになったのか、自分の言葉で学んだことを振り返らせていた。